自己をはこびて萬法を修證する迷ひとす。

萬法すすみて自己を修證するはさとりなり。

道元『正法眼蔵』第一　現成公按

「はこぶ」「すすむ」は、生きているからこその動作全体をさしています。

自分自身で生きている、「俺が決める」、「私が選ぶ」、そうやって生きているつもりでも、実は宇宙全体の意思・法則と無関係の自己というものはなく、むしろ万法（あらゆるものに共通の真実）が実証されてしまう。これが「迷い」である。

また、

万法（普遍の真実・宇宙全体の意思法則）に遵って生きているところに、ほかならぬ自己の、根源的・本質的な真実・真の意志が実証される。これを「悟り」と称する。

「迷い」も「悟り」も、その実態は、万法とともに生かされ、生きている事実である。我々は、大いに迷い、大いに悟ればいい。